Workshop

ビオトープ作り

ビオトープとは、その土地に本来住んでいる生きもの（Bio）が生息活動する場所（Top）という意味の合成されたドイツ語です。「ビオトープづくり」とは、自然の植生を増やし、虫や小動物といった生物を呼び込んで、その場所本来の生態系、生物群集の生息空間を築く試みです。森や原っぱ、池や川などが季節や時間の中で移り行き変化する状況を生きものの視点でみつめ、感じ、考える環境を管理し、保全することを前提として行います。また、生き物の多様性は陸地と水辺の間（エコトーン）で高まる傾向があるので、ビオトープは水辺で作られることが多いです。

今回、ビオトープ作りを行う「横沢の森」は、コナラやクヌギ、クリなどを中心とした、いわゆる「雑木林」と呼ばれる森です。多くの昆虫、リスやサル、野鳥など様々な生き物が住んでいます。また、二期倶楽部の敷地内の森は、常に人間による手入れが入っていることから、「里山」でもあります。草刈りや落ち葉かきなどの手入れが程よく入ったこの森は、地表面まで光が当たり、山野草や山菜、薬草、木の実、キノコの宝庫となっています。生物多様性が高いだけでなく、人にとっても有用な植物を得ることができる素晴らしい森です。

このたび行われたビオトープ作りは、那須野が原生きものネットワークの飯沼さんのご協力のもと、キッチンガーデンにある、周りが森で囲まれた池で、水辺の生きもの調査を行いました。お子様も多くご参加いただいたほか、大人の方もとても熱心に調査されていました。今回の調査の結果、アカハライモリ、色々なカエルのオタマジャクシなどの両生類のほか、暗い場所を好むルリボシヤンマ、タカネトンボ、クロスジギンヤンマのヤゴ、富栄養化した水辺に棲むミズムシなどが見つかりました。捕まえた生きものはルーペや顕微鏡で細かいところを観察し、絵を描いたりして記録した後、池に還しました。採れた生きものから考えると、ここは暗くて富栄養化した環境の池ということになります。この池を、もっといろいろな種類の生きものが棲む生物多様性が高くなるようにするにはどうしたらよいかをみんなで考えたところ、池の周りの木を伐って、池の一部に明るい場所を作ったり、富栄養化を止めるために、池に溜まってしまった葉を取り除いたりする活動が必要だという結論になりました。

森のコンシェルジュ　阿久津　瞳

Highway
Corner
All machine!
STAFF
遠山 修二
BIOTOP